

1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5460m付近のトラフに対応する低気圧が千島の東を北東進、500hPa 5520m付近のトラフに対応する低気圧が日本の東を東北東進。
- ② 500hPa 5520～5700m付近のリッジに対応して朝鮮半島付近を東へ移動する高気圧が日本付近に張り出しているが、先島諸島付近では、高気圧の南縁を回る下層暖湿気の影響でやや強い雨を解析。
- ③ ①の低気圧と②の高気圧の間や、②の高気圧の南縁では気圧の傾きが大きくなり、東日本太平洋側と南西諸島ではやや強い風や強い風が吹き、波が高くなっている所がある。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項②の高気圧は、4日は日本の東に中心を移し、5日は日本の東を東北東に移動しながら本州付近に張り出す。また、6日は大陸の高気圧が本州付近に張り出す。
- ② 4日は、500hPa 5820m付近の正渦度極大域に対応して、朝までに華南付近で発生する前線が、夜にかけて南西諸島にのびる。5日は、この前線が南西諸島付近から日本の南に進む。また、6日は、500hPa 5820m付近のトラフに対応して、朝までに前線上の日本の南で発生する低気圧が日本の東に進み、前線は小笠原諸島付近にのびる。前線や低気圧に向かう下層暖湿気の影響で、南西諸島では6日にかけて、小笠原諸島では5～6日は、大気の状態が不安定となる所がある。落雷や突風、急な強い雨、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。また、南西諸島では5日にかけて、雷を伴い強い雨や激しい雨が降り大雨となる所がある。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。
- ③ 5日は、500hPa 5220m付近のトラフに対応して、オホーツク海に進む低気圧からのびるシアーラインが、北日本を通過する。また、6日は、500hPa 5400m付近のトラフに対応する低気圧が、中国東北付近からオホーツク海に進む。上空寒気とシアーラインや低気圧に向かう下層暖湿気の影響で、北日本では5～6日は、大気の状態が不安定となる所がある。落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。
- ④ 2項①の高気圧の南縁や、2項②の前線や低気圧及び2項③のシアーラインの周辺では気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹き、波が高くなりしける所がある。南西諸島と東日本太平洋側では6日にかけて、北日本では5日にかけて、西日本太平洋側では5～6日は、強風や高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

- 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。
- ## 4. 防災関連事項【量的予報等】
- ① 雨量(06時から24時間)：多い所(100mm以上)はない。
 - ② 波浪(明日まで)：奄美・沖縄4、北海道・伊豆諸島・四国・九州北部・九州南部3m。
 - ③ 高潮(明日まで)：大潮の時期。東～西日本と南西諸島では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無

発表の予定はない。